

[講演要旨]

1454(享徳三)年に奥州に大津波をもたらした地震について

石橋克彦(神戸大学名誉教授)

§ 1. はじめに

2011年東日本巨大津波に似た大津波を生じたかもしれないといわれる享徳三年十一月二三日(1454年12月12日)の地震について、行谷・矢田(2014)が、『[古代・中世]地震・噴火史料データベース(β版)』(古代中世地震史料研究会, <http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/erice/>; 石橋, 2009; 以下「地震史料DB」と略記)にもとづいて詳しく検討している。

地震史料DBには5点の史料が収載されている。行谷・矢田(2014)は史料等級B(主として近世までに成立した史料, 史料批判をおこなえば活用できると判断される)の『王代記』と『会津旧事雑考』だけを用いて、津波が青森県～福島県の太平洋岸(あるいはその一部)を襲ったことはほぼ確実だが、地震動は、東北地方か山梨市で揺れた可能性があるが、それ以外の地域を特定することはできないと考えた。

しかし、史料の再検討から多少違った解釈も可能だと考えられるので、以下にそのことを述べる。

§ 2. 『王代記』の地震記事

山梨市の窪八幡神社伝来の『王代記』は、『山梨県史』資料編6(山梨県, 2001)によれば、(1)「王代記」とそれに続く年録、(2)「年代記A」、(3)「年代記B」の三つの部分に分けられる。本地震の記事は、(1)では、

同(享徳)三年甲戌十一月廿三日夜半、天地震動シテ、奥州ニ津波打テ、百里山ノ奥ニ入テ、人多海ニ入テ死、

となっており、(3)では、

甲戌 三(享徳) 十一月廿三、夜半ニ天地震動、奥州ニ津波入テ山ノ奥百里入テ、カヘリニ人多取ル、

となっている。

『新収日本地震史料』第1巻(東京大学地震研究所, 1981)と地震史料DBが収録しているのは後者だけだが、行谷・矢田(2014)は前者を用い、「奥州には津波が来襲し百里先の山の奥まで浸水して、多くの人々が海に流され死亡した。(中略)『百里』をそのまま受け止めれば約390km内陸まで浸水したことになるが、これは『日本三代実録』の貞観地震津波の例のように、『内陸深くかつ広い範囲』という意味で使われているのであろう」と述べている。しかし、前者と後者の「百里」の語順の違いに注目すると、前者はもしかすると「海岸線百里にわたって津波が山の奥まで入って」という意味なのかもしれない。もしそうであれば、本地震・津波は2011年のものに匹敵する規模だったことになる。この文章解釈には無理があるかもしれないし、

(1)と(3)の関係が不明だそうなので、上記新解釈を強く主張するわけではないが、指摘しておきたい。

§ 3. 『大宮神社古記録抄』について

地震史料DBに収録されている表記史料は、史料等級C(主として明治以降に書かれた文献, 標準モードでは表示されない)となっていることから、行谷・矢田(2014)は検討対象外とした。

これは武者金吉が『地震』第1輯3巻8号(1931)に「上総岩和田大宮神社古記録抄(房総地震史料)」として書いたものなので、その限りではCといえる。しかし、大宮神社(千葉県御宿町)の古記録(寛永二〇年成立, 文化五年書写)の写しから武者が地震記事を書き抜いたものというから、史料等級はむしろBとすべきだろう。「享徳三年十一月廿三日夜子丑尅大地震ヨルヒル入」という記述は、外房地方の事実の記録や伝承を書き留めたものである可能性がある。

§ 4. 新史料および京都・奈良の記録と、総括

既刊地震史料集にも地震史料DBにも収録されていない史料として『異本塔寺長帳』がある。『会津坂下町史 III 歴史編』(会津坂下町, 1979)によれば、

享徳三年甲戌(中略)今年日本徳政也 十一月廿三日夜大地震(後略)

である。本史料の中世の地震記事は一般的に信頼性が低いのだが、紹介しておく。なお、同時代史料である『塔寺八幡宮長帳』には享徳三年の裏書がなく、前後を含めて地震記事は見えない。

京都・奈良の状況をみるために、皆川(1984)の「記録年表」に挙げられている享徳三年十一月ないし一二月の記録のうち刊本4点を再調査した。しかし、伝聞情報を含めた地震記事は見つからなかった。

以上を総括すると、「二三日の深夜(日付は二四日か)大地震があり、陸奥国に津波が押し寄せた。津波は山の奥まで入り、多くの人々が海に引かれて死んだという。津波と強震動の範囲は不明だが、山梨県の山梨市付近や外房の御宿町付近で強い揺れを感じた可能性がある」ということになる。

付. 地震史料DBについて

地震史料DBは未完成で、修正・改善中だが、β版(試用版)として公開している。しかし、本発表の論点は要修正箇所由来しており、責任者として個人的に申し訳なく思います。トップページの注意書きを改善するなどの善処を図りたい。活用していただくのは有難いですが、注意してお使いください。